

2014年9月3日

## インドネシアのフロートガラス生産体制を強化

**AGC** 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）は、インドネシア当社連結子会社のアサヒマス板硝子社（以下、AMG社）に約160億円を投じて、ジャカルタ工場のフロート窯1基に替わる最新鋭の生産窯を新設することを決定しました。新窯はジャカルタ近郊のチカンペック地区のAMG社自動車ガラス加工工場（チカンペック工場）近接地に建設し、2016年第3四半期に量産を開始する予定です。従来よりも40%生産能力を増強した新窯の設置により、同社のフロートガラス生産体制を強化します。

AMG社は、ジャカルタ工場およびシドアルジョ工場それぞれにフロート窯を2基保有（生産能力合計：年間57万トン）し、建築用及び自動車用ガラスの素板となるフロートガラスの生産を行っています。インドネシアでは、堅調な経済成長を背景として、建築用及び自動車用ガラスの継続的な需要拡大が見込まれており、旺盛な需要に対応できる競争力の高い生産体制の構築が必要です。

また、ジャカルタ市都市開発計画では、ジャカルタ工場の用地指定が将来的に商業用地に変更されることとなっており、同計画への対応も求められています。

このような状況の下、今般、AMG社では、フロートガラス生産体制強化の一環として、ジャカルタ工場のフロート窯1基を停止し、チカンペック工場の近接地に、建築や自動車用途などの多品種に対応可能な最新鋭窯を1基建設することとしました。

新窯の概要は、以下の通りです。

### <新窯の概要>

1. 所在地 インドネシア、西ジャワ州チカンペック
2. 生産能力 フロートガラス・約21万トン/年
3. 特徴
  - ・旧窯よりも40%生産能力を向上
  - ・世界最高レベルの燃費効率を持つ環境配慮型
  - ・建築や自動車用途などの多品種の高品質ガラス生産が可能
  - ・近接する自動車ガラス加工工場との効率的な一貫生産に対応

AGCは、今後も新興国の拡大する需要を確実に取り込み、成長基盤の強化・定着を図ります。

以上

◎本件に関するお問い合わせ先：**AGC** 旭硝子（株）広報・IR室長 小林 純一  
（担当：杉山 TEL：03-3218-5603 E-mail：[info-pr@agc.com](mailto:info-pr@agc.com)）

## 【ご参考】

### アサヒマス板硝子社

1. 社名 アサヒマス板硝子株式会社
2. 代表者 千代田 万平
3. 本社所在地 インドネシア、ジャカルタ
4. 資本金 2, 170億ルピア
5. 出資比率 AGC 43. 9% (当社連結子会社)  
Rodamas\* 40. 8%、その他 15. 3%  
※現地パートナー
6. 設立 1971年
7. 生産品目 建築用ガラス、自動車用素板ガラス、自動車用加工ガラス、  
産業用ガラス、ミラー
8. 生産能力 新窯建設前 フロートガラス・57万トン/年 (2016年第2四半期まで)  
新窯建設後 フロートガラス・63万トン/年 (2016年第3四半期以降)  
※新窯建設により、全体の生産能力は約1割増える予定。
9. 生産拠点

